

学校評価報告書（自己評価書・学校関係者評価書）

令和8年1月27日作成

中期目標	重点努力目標（評価項目）		自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 （★学校関係者評価を受けて）
子どもを育成する。 のよりよい「時」と「場」をつくるとする、前向きで心豊かな心を育成する。	豊かな心を育む 思いやりの心をもち、共に生きるため 明るく活力ある学校づくり	・「時間・あい・そう」の心を浸透させ、みんなで取り組むことで、気持ちのよい集団をつくる。 ・特別活動の充実を図り、子どもの自発的活動を積極的に展開する。 ・学級・学校目標を共有し、誰もが自分事として学級・学校づくりに取り組む。	B	A	・あいさつ運動に立つ子どもや教師が多く、役員会や生活委員会を中心としてあいさつを盛り上げていこうと活動ができている。 ・委員会によるキャンペーン活動など、各委員会が工夫を凝らし活動を進めることができた。 ・子どもたちのよい姿をメッセージとともに写真掲示したり、お昼の放送で紹介したりすることで、よい行いについて子どもたちは意識できた。	A	・学校も地域も挨拶に力を入れていてることがとてもよくわかる1年だった。学校外でのあいさつがもっとできるとよい。豊かな心は挨拶から。 ・気持ちが上向きになるような掲示物があふれていて素敵であった。人を好きになり、自分を好きになっていくとよいと思った。 ・学校が子どもの発想を取り入れて活動を展開し、子どもが主体的に活動しているところがよい。	・役員会を中心とした生活委員や美化委員の常時活動の充実を図っていく。 ・よい姿については積極的に広めていき、気持ちのよい環境を自分たちがつくる意識をもてるよう働きかけを継続していく。 ・重点目標の内容を、今月のめあてにうまく組み込んでいく。 ★子どもも教師が一体となって、明るく活力のある学校にしていこうという意識をさらに高める取り組みを進める。
		や る 心 の 育 成 の 意 識 や 他 者 を 思 い や り	・「みんなが幸せな学校・学級」を目指し、誰もが自分事に学校・学級づくりに参画し心のインクルーシブ教育を進める。 ・「心が動く」体験や「心に響く」指導で子どもの感性を磨く。	A	・学校保健委員会を通じ、前向きな考え方へ変換する方法をみんなで学ぶことができた。			
を養うとともに、活用できる確かな学力を育成する。 自ら考え、自ら学ぶ態度	確かな学力を育む 自ら考え、自ら学ぶ態度 とする力」と「学ぼう	・興味、関心、疑問、感動が生まれる「学びの場」や「体験的な学習」を重視する。 ・自ら問題を見つけ、主体的に学習に取り組めるような授業構想の工夫をする。	A	B	・単元との出会いを工夫することで、子どものやってみたいという思いや問題意識が高まった。 ・子どもの疑問を解決したり、関心を高めたりできるように、体験的な活動やゲストティーチャー活用を取り入れたことで、自分事として主体的に学ぶ姿が見られた。	A	・それぞれのクラスで、楽しく授業に参加できるように工夫されていた。子どもの思いを大切にし、教師が思いをもって子どもの可能性を伸ばす支援をしていました。 ・お互いに教えたり、手本にしたりとよい相互関係があった。 ・自己成長力を身につけることは大切。家庭学習を自分事として捉えて取り組めるように、今後も指導を継続して、家庭学習を浸透させてほしい。	・主体的に学ぶ力を身につけさせるために、「問い合わせ」と「振り返り」を大切にした授業づくりを今後も進めていく。 ・主体性や活用できる確かな学力を育むため、今後も体験的な学習を積極的に取り入れ、「実感」をともなった理解を積み重ねていけるようにする。 ★それぞれの目標や興味関心に基づいた家庭学習の定着を家庭と連携して進める。
		む 力 の 育 成 通 し を 持 つ て 取 り 組 思 考 力 ・ 判 断 力 ・ 見	・聴く力」「読み取る力」を高め、本質が理解できる子に育てる。 ・「思い」をもち、それを「実現」するために考え方行動する過程で、活用できる学力を養う。	B	・タブレットを活用し、多くの情報の中から自分の知りたい情報を選択しまとめる力を身につけさせることができた。			
を乗り越えたりする経験を通して、体力の向上を図る。 なやかな心の育成と体力の向上を図る。 たましさを育む 挑戦したり困難	の育成 強くしなやかな心	・「ピンチはチャンス」と、乗り越える経験から学ばせる。 ・子どもが挑戦する機会をつくりがんばりを価値づける。 ・道徳・生き方教育を充実させ、多様な考えにふれさせる。	B	A	・土壌改良工事で運動場が使えない中、空き教室や渡り廊下に遊び道具を用意したり、放課に体育館を開閉したりしたこと、子どもたちはすんなり体を動かすことができていた。 ・栄養教諭の話により、バランスのよい食事の大切さに意識が向いた。意欲的に食べる子が増えた。 ・GRを心の居場所にして登校できる子どもが何人もいた。	A	・運動場が使えない時期があったことで、新しい過ごし方や遊び方を見出し、上手に時間を使っていたと思う。 ・学校に行きづらさを感じている子に、個に応じた対応がされている。一人一人の困り感は異なり、対応は手探りになるが、チームで対応しているところが多い。チームで取り組むことによって、子どもによいし、教員間のスキル向上にもなっている。	・自分の目標をもって挑戦する活動の充実を図る。学習カードなどの活用を工夫するとともに、がんばりを認めて励ます。 ・食の大切さがさらに感じられるよう、栄養教諭による授業を計画的に取り入れていく。 ★よりよく生きるための力を育むため、多様な人の関わりや考えに触れる機会を設ける。
		保持・増進 心身の健康の	・時間と場所を確保して、体力向上と心の安定を図る。 ・栄養教諭を核に食育の推進 ・不登校児童への組織的・早期の対応	A				
図る。 的に働きかけ、地域協働・家庭連携の充実を図る。 【家庭・地域との連携】家庭・地域・積極	家庭の基盤づくり とともに生	・子どもの「自立・自律・共生」という目標や取り組みの目的を家庭と共有し連携 ・「メディアチャレンジ」「情報教育」「食育」を家庭と共に取り組む。	A	A	・「メディアチャレンジカード」を定期的に実施することで、生活習慣を見直し、意識することができた。 ・学校保健委員会では、子どもたちが心と体の健康的な生活について考え、改善していくようという意欲の高まりにつながった。	A	・子どもたちは、落ちついて生活していた。 ・メディアチャレンジはとてもよい活動だと思う。長く続けていくとよい。 ・地域と関わり、つながる授業が行われており、将来にもつながっていくと思った。 ・体験をうまく活用した授業はますます大切になっていくと思う。	・メディアとの共生をするため、今後も家庭と連携して取り組んでいく。 ・うずら工場や曙給食センターへの訪問学習、地域の農家の方から学ぶ学習、御幸神社の花まつりや高師原の開拓について学ぶ学習など、地域と学校が一体となった教育活動を今後も充実させていく。 ★地域教材活用の充実を図る。
		色ある学校づくり とともに創る特	・地域の「人・もの・こと」を生かした教育の推進 ・開かれた学校づくり（情報の発信と地域教育力の活用）とコミュニケーションスクールの準備の推進	A	・地域教材やゲストティーチャーを取り入れたことで、子どもたちの学ぶ意欲を高め、地域とのかかわりも深めることができた。			
【学校の教育力向上】教師一人一人が持ち味を生かして学校運営に参画し、個々に寄り添った教育活動を展開する。	安心安全な学習環境づくり	・さまざまな個に対応できる児童支援体制の構築と校内サポート室のよりよい運営 ・教職員の危機管理意識の向上と南海トラフ地震への対策強化	A	A	・校内サポート室や通級教室においては、個別の状況に応じた支援を行うことで、安心して登校し学習する子が増えた。 ・さまざまな状況を想定した避難訓練を実施できた。課題を洗い出し、次の訓練へとつなげていった。災害停電時の連絡手段確保のためにトランシーバーを活用するなど、対策強化を進めることができた。	A	・安全を考えた教育環境づくりがされていた。 ・先生たちにはのびのびとやっていると嬉しい。 ・子どもの思いを生かしながら感受性を豊かにする教育活動がされている。 ・それぞれのクラスで授業形態が工夫されていた。 ・若い先生が増えた。思いややる気をもってやっていると感じた。チームとして学校が取り組んでいるところが多い。チームで取り組むことが人材育成につながっている。 ・思いをもって取り組むことで子どもが育ち、子どもが育つことで大人も育つと思う。これが教育力だと思う。これまでの取り組みを今後に生かしてほしい。	・来年度も、学年内での情報共有を密に行い、指導支援の方向性を統一し、担任全員で学年全体を見ていく。 ・運営委員会では、引き続き各学年の情報交換をし、他学年の状況を踏まえて学年指導をしていく。 ・適正な勤務時間で働くことができるよう、目標を明確にした効果的・効率的な計画立案、教職員の協働した取り組みを大切にしていく。 ★安全対策やさまざまな個への支援について、チームで見直しを図りながら、安全で安心な教育環境づくりを継続していく。
	授業力の向上を目指す 現職研修の推進	・問題解決的な学習（主体的・対話的で深い学び）の授業研究を通して、授業力向上 ・専門的な研修・OJTによる教師力（生徒指導・生サポ・学級経営）の向上 ・子どもも教師も「楽しい」と感じる授業づくり	A		・授業研究会では、検討の視点を絞って教員間で意見交換をしたことで、指導方法の見直しにつながり、学び合うことができた。			
	働き方改革による組織の推進	・学年主任を核とした体制と得意分野を生かした学校運営 ・目的や大切なことを共有し、見通しと優先順位を明確にした業務改善 ・教職員の意識改革とマネジメント力の向上	A		・学年、学校全体で情報共有を図りながら、よりよい方法について考え合い、指導を進めることができた。			

【自己評価】 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない】

【総合評価】 自己評価をもとに 上記のA・B・C・Dで評価】

【関係者評価】 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない】